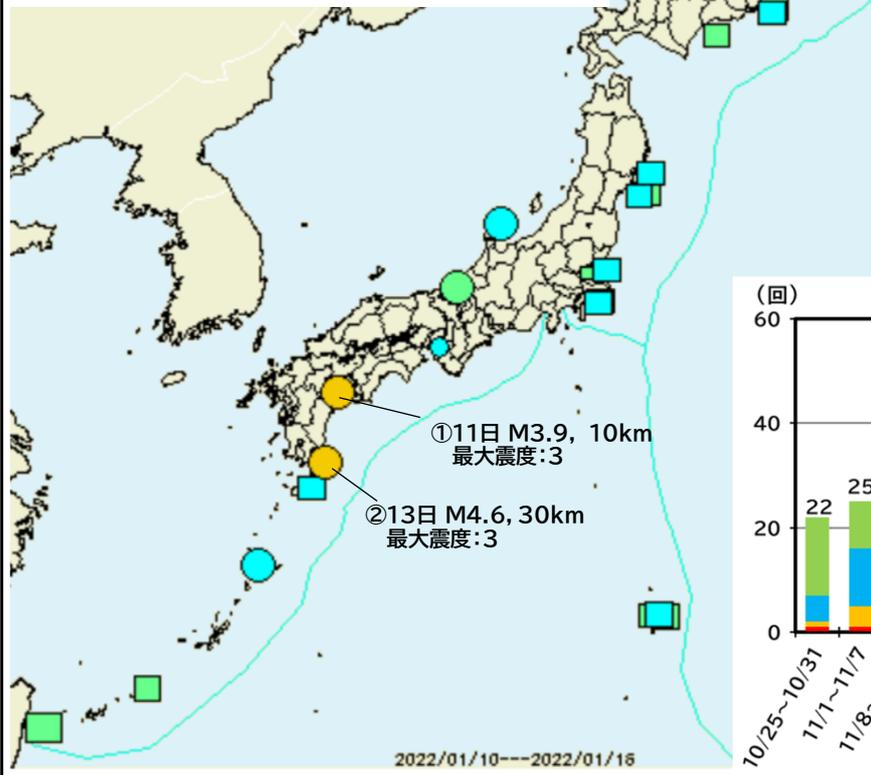


この期間の最大震度は3 トンガ諸島の火山噴火により津波観測

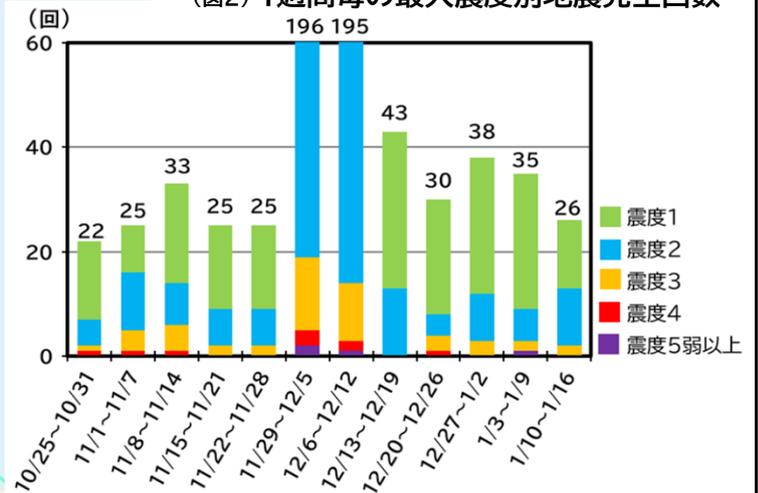
本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)

(図1) 期間内に発生した震度1以上の地震
(最大震度を主眼とした表示をしています)



最大震度	マグニチュード	深さ(km)
震度5弱以上	○	0
震度4	○	30
震度3	○	90
震度2	○	▲
震度1	○	

(図2) 1週間毎の最大震度別地震発生回数



主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

- この期間、震度1以上の地震が26回発生。最大震度は3。トンガ諸島の火山噴火により津波観測 ■
- ① 11日12時23分に大分県南部で発生した地震(M3.9、深さ10km)により、大分県津久見市及び佐伯市で震度3を観測したほか、山口県、愛媛県、高知県、大分県及び宮崎県で震度2~1を観測。この地震は地殻内で発生。
- ② 13日15時26分に大隅半島東方沖で発生した地震(M4.6、深さ30km)により、鹿児島県鹿屋市及び錦江町で震度3を観測したほか、宮崎県及び鹿児島県で震度2~1を観測。

トピックス

■ トンガ諸島の火山噴火による津波 ■

- ・15日13時10分(日本時間)頃、トンガ諸島付近の海底火山(フンガ・トンガ-フンガ-ハアパイ火山:図3)が噴火し、日本を含む太平洋沿岸各国の広い範囲で津波が観測された(※)。
- ・国内で最初に観測された津波は15日19時58分に父島二見で、以降、北海道太平洋沿岸から沖縄与那国島までの主に太平洋沿岸で観測され、最大は、15日23時55分に奄美市小湊で観測された1.2mの津波(図4:父島での最大は0.9m)。
- ・津波が発生する原因の多くは、海底下で発生した大規模な地震により、海底が隆起もしくは沈降することに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播することです。
- ・一方、噴火に伴って被害を伴う津波が発生したことも過去には多く発生しており、1640年の北海道駒ヶ岳や1792年の雲仙岳で発生した大規模な噴火により山体崩壊が発生し、海に達した岩層なだれが巨大な津波を発生させ多くの人命が奪われた。
- ・また、火山島の巨大噴火により、元々島であった部分が海中に陥没(カルデラ)して津波が発生したこともある。
- ・今回の津波の発生原因は調査中ですが、噴火によって発生した衝撃波が伝わる際に海面に波を発生させ、これらが重ね合わされることで津波となったとする説が有力なようです。
- ・今後、再び同様な噴火が発生した場合には、再び津波が来襲するおそれもあります。
- ・津波警報や津波注意報が発表された場合には、通常の津波に対する対応と同じ防災対応をとって下さい。

※:気象庁は今回観測された潮位の変化には、通常の津波にみられる特徴がみられないことから津波とは断定していませんが、ここでは津波と表現しました。

